

医療市場拡大も民間病院に環境厳しく

ベトナム医療サービス市場は経済発展、高齢化を背景に需要が高まっている。保健省の統計によれば、総診療回数は1.22億回超（2014年）、年間医療支出額は2004～2013年にかけてCAGR（年平均成長率）14%で増加し、2013年は106.7億ドル、1人当たりで換算すると111.2ドルとなった。また、2015年に海外で医療サービスを利用した患者数は約4万人（支出額20億ドル）と概算されており、各種需要が増加していることが分かる。

受け皿となる病院施設はどうだろうか。公立病院の病床稼働率は年平均90～110%（2014年）、大病院では1つの病床を2人以上で利用する状態であり、病床数の不足が大きな課題となる。大病院以外の公立病院においてはインフラが不足しており、整備が比較的進んでいる大病院に患者が集中している構図もある。民間病院については2004年比で約4.6倍増加し、182施設（うち外資病院は6施設、合計病床数約9,500）、全体に占める割合は13.2%（総病床数の約4%）となっている。主要民間病院はハノイ、ホーチミンのような大都市に集中しており、人気があるブランドはVinmec 国際総合病院、FV病院（香港）、Hoan My 総合病院（シンガポール）などがある。

需要が高まっているにも関わらず、民間セクターは全体として芳しくないようだ。公立病院の過密状態に反して、民間病院の病床稼働率は年平均20～60%未満が過半数を占めている。多くの事業者が一定売上を確保できていない状況を受け、ベトナム民間病院協会会長 Nguyen Van De 氏は「民間病院の半分は既に破綻している」と述べている（2014年）。

患者にとって民間病院の魅力が低い理由は何だろうか。

第1に、品質について疑問視する患者が多い点だ。市場全体として質の高い医療従事者が不足しており、実際、多くの民間病院が公立病院の退職者や現職者をパートタイムで採用し、経験が少ない医師を従事させている状況がある。

第2に、病院事業には多額の初期投資が必要であるため、投資回収のため安価な医療サービス価格の実現が難しい点だ。

第3に、ヘルスケア市場の成長を企図した政策が民間による運営の障害となっている点があり、政府レベルでの検討が必要な大きな課題だ。特に「公立病院でのPPPモデル採用」、「医療保険に関する規定」が問題である。例えば、公立病院も自由診療サービスを提供可能であり、民間病院は政府援助を受けている公立病院と競争が強いられる。また、医療保険が適用される医療機関として民間病院も登録できるように法整備はされているが、実際に許認可が降りるまでの障壁が大きい。さらに、医療保険法2014では、病院の技術レベルによって医療保険基金の負担割合が規定されているものの、民間病院は区分されておらず、患者は診療費の100%を負担する必要がある。そのため、医療保険加入者が民間病院で診療サービスを受けるインセンティブは高くない。

市場の成長は今後も続くことが予想されるが、現段階での投資環境はそれほど魅力的なものではないよ



うだ。ヘルスケア基盤整備は最重要国家戦略の1つであるが、市場の健全な成長を阻害しないよう、民間事業者のための投資環境整備が急がれる。

民間病院に関する重要統計数値（2014年）

項目	数値	全体に占める割合
病院数（2015年）	182 病院	13.2%
病床数	9,501 床	4%
平均病床稼働率	40～60%	-
外来患者数	770 万人	6.3%
入院患者数	N/A	6%
保健医療適用となった診療回数	N/A	4%

資料：ベトナム保健省